

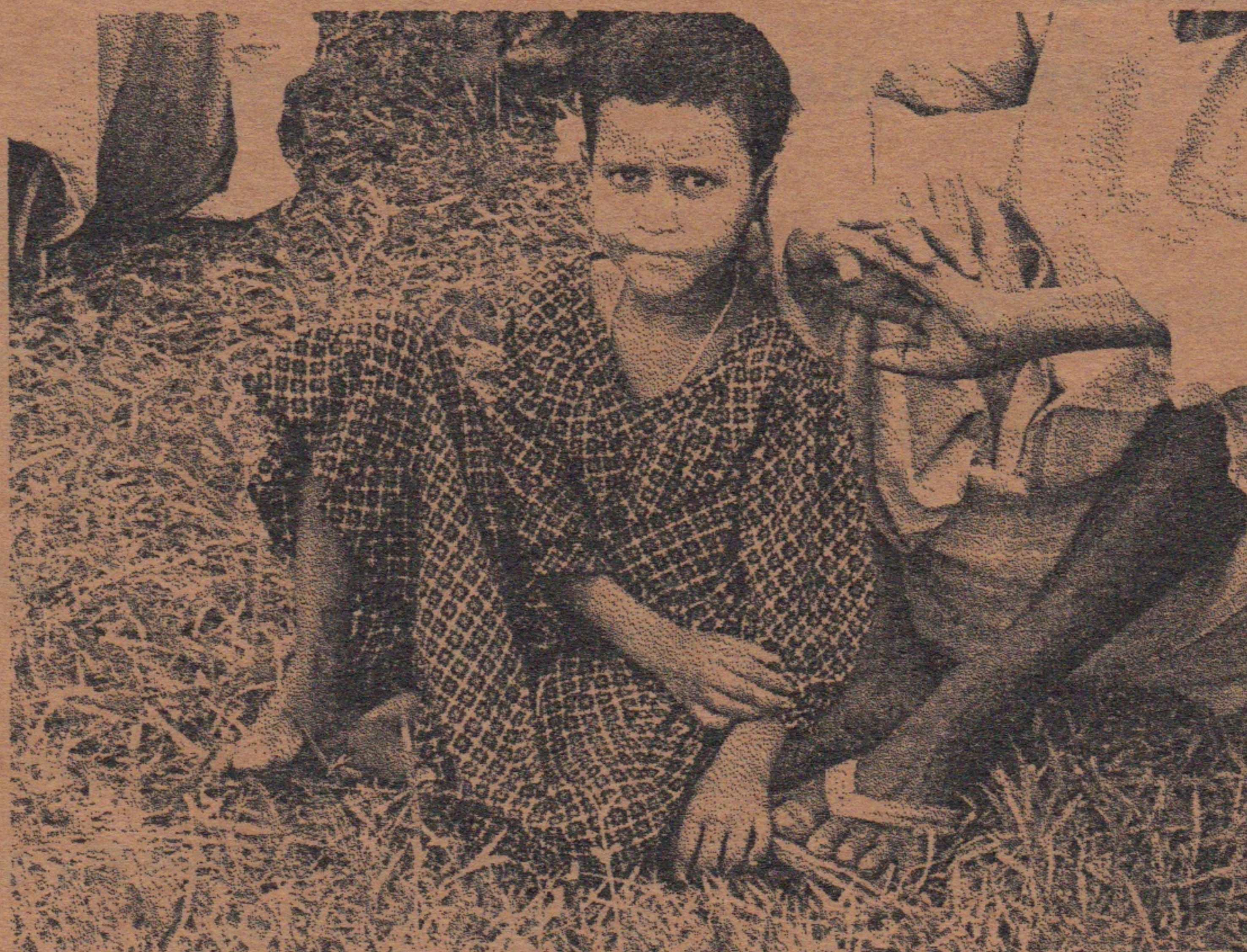
特定非営利活動法人

バン格拉テッシュと手をつなぐ会

ミロン

No.102

May 2005



花を挿して「ハイポーズ」のはずが……

思わず真剣な表情になっちゃった。

「ミロン」は、一つになる、手をつなぐ という意味のベンガル語です。



## ■ アジアの子どもたちの未来のために ■

### Bangladesh と手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

Bangladesh と手をつなぐ会では、 Bangladesh ・カラムディで現地の村人による開発のための委員会「シヨンダニ・シヨンスタ」と協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

#### 教育の分野では

将来を担う子どもたちの教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、教科書の貸出】

#### 医療の分野では

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



#### 国内活動では

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】



## 総会無事終了しました。 さあ！ 夏の現地訪問へ向けて・・・

4月24日の総会は、運営委員会の報告と活動方針、予算が承認され無事に終了しました。協力隊OBの吉岡さんのバングラデシュツアー報告も、新鮮で興味深いものでした。新しい年度の出発にふさわしい総会でした。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。参加できなかった皆さんは、紙面でごらん下さい。

いよいよ2005年度の活動開始です。6月にはNGO福岡ネットワーク主催の世界難民の日イベント「私たちのなかの難民」が開催されます。(同封のチラシをごらん下さい。) また、夏の現地訪問へ向けての準備も進んでいます。今年はずでに、7人の申し込みがありました。5月14日に感動的なコンサートが行われた長崎からも参加予定です。6月2日から事前研修も始まります。これを機会に、現地に行ったことのない会員の方も、一緒にバングラデシュのこと、会の活動の歴史などを勉強してみませんか？

(二ノ坂 保喜)



### ミロン 102号目次

あいさつと目次	1
現地からの報告	2~4
総会報告	5~6
「バングラデシュの母子保健センターを支援する会 第7回チャリティーコンサート」報告	7
国際ソロプチミスト・今井記念海外協力基金についての報告	8
春のバザー・「NGO活動発表会と三笑亭夢之助独演会」報告	9
FUNNイベント案内：『私たちのなかの難民』	10
会計報告	11
「バングラデシュと手をつなぐ会」入会のご案内	12
これからの行事予定	裏表紙



# 出産病棟 竣工！

5月19日（木）15:00～、カラムディ村の母子保健センターにて、待ちにまった出産病棟の竣工式が行われました。

＜竣工式の報告がションダニシヨンスタの事務局長である

ザホル氏よりE-メールにて届いております＞

～ザホル氏のメールより～

19日の竣工式は、滞りなく且つ盛大に開催されました。

竣工式には、郡行政執行官（UNO）をはじめ、新聞社、テレビの取材そして500人を超える村人たちの参加がありました。またその参加者の3分の1が女性の方だったことは特筆すべきことでしょう。

~~~~~  
竣工式は大勢の参加のもと、スピーチを中心としたセレモニーとオンネシヤスクールの生徒によるカルチャープログラムの2部構成で開催されました。

ションダニスタッフを始め、医療スタッフや来賓の郡行政執行官のスピーチ、初代看護婦からの当時の様子、オンネシヤの状況報告、また出産に関する啓発的内容のスピーチなどションダニのアピールにもつながる内容で会は進んでいきました。

また、現在 JICA の駐在員としてバングラデシュに滞在しております矢野氏が出席し、手をつなぐ会の代表としてスピーチを行い、二ノ坂代表からの手紙をオンネシヤスクールの先生が代読し、手をつなぐ会からの言葉を伝えました。そして、95年7月に母子保健センターで生まれた子供たちの手で除幕が行われました。

一組でも多くの母子が、この場所で健康な出産が出来ますことを祈ります。しかし、病棟内の設備については不足しているものがたくさんあります。引き続き、募金の呼びかけをしていかなければなりません。



[矢野孝明さんのスピーチ]

竣工式での矢野さんのスピーチがメールで送られてきておりましたので、ご紹介いたします。

\*\*\*\*\*

スペシャルゲストである UNO、ションダニチアマン、そして何よりここにご参加いただいている、私の友人たちでもありますカラムディ村の皆様へ、アッサラムアライクン。

本日のこの竣工式には本来なら二ノ坂代表をはじめ、運営委員の皆も参加を望んでいるところではありますが、ご存知のように日本からそう簡単に来れるものではありません故に、ドナーの代表として私が参加させていただいております。まずはじめに、私個人からそして手をつなぐ会を代表して、この新しい病棟の竣工を心からお喜び申し上げます。この病棟の設立により、皆さんにより一層、安全で適切なデリバリーサービスを提供できるようになることを私は確信しております。この病棟はションダニのものではありません。ここに参加されている皆さんをはじめ、このカラムディ村、村人すべての人たちのものなのです。そのことを忘れずにどんどん利用されることを皆さんに望みたいと思います。

今日は皆さんに2つのことをお話したいと思います。

1つ目は、今朝私は、ダッカからここに来るのにガンニ行のバスに乗りました。そのときに乗り合わせたメヘルプールに行く人に突然、こう言われました。「あなたはションダニに行くのですか?」と。私はびっくりすると同時にとても嬉しく思いました。こんな遠方の地域にある小さな NGO が広く知られ、同時に影響力をもたらしているのだなあ感慨深くもありました。これもスタッフの頑張り、そしてなにより皆さんの協力あってのものなのです。

2つ目は、今日私は久しぶりにここに帰ってきました。私の自己紹介をさせていただくと、この村に2001年の9月から1年間滞在しておりました。その後2003年7月からタンガイルという所で JICA の農村開発プロジェクトで仕事をしております。こうして久々に帰ってきてても皆さんは「元気だったか?」と私を温かく迎えてくれます。その度に私の故郷はカラムディ村であることを実感させられるのです。今は遠くに住んで別の仕事をしていますが、私の心はいつもここにあります。それは私だけでなく日本の手をつなぐ会の皆さんも一緒です。どうかそのことを忘れないでください。(一部省略)

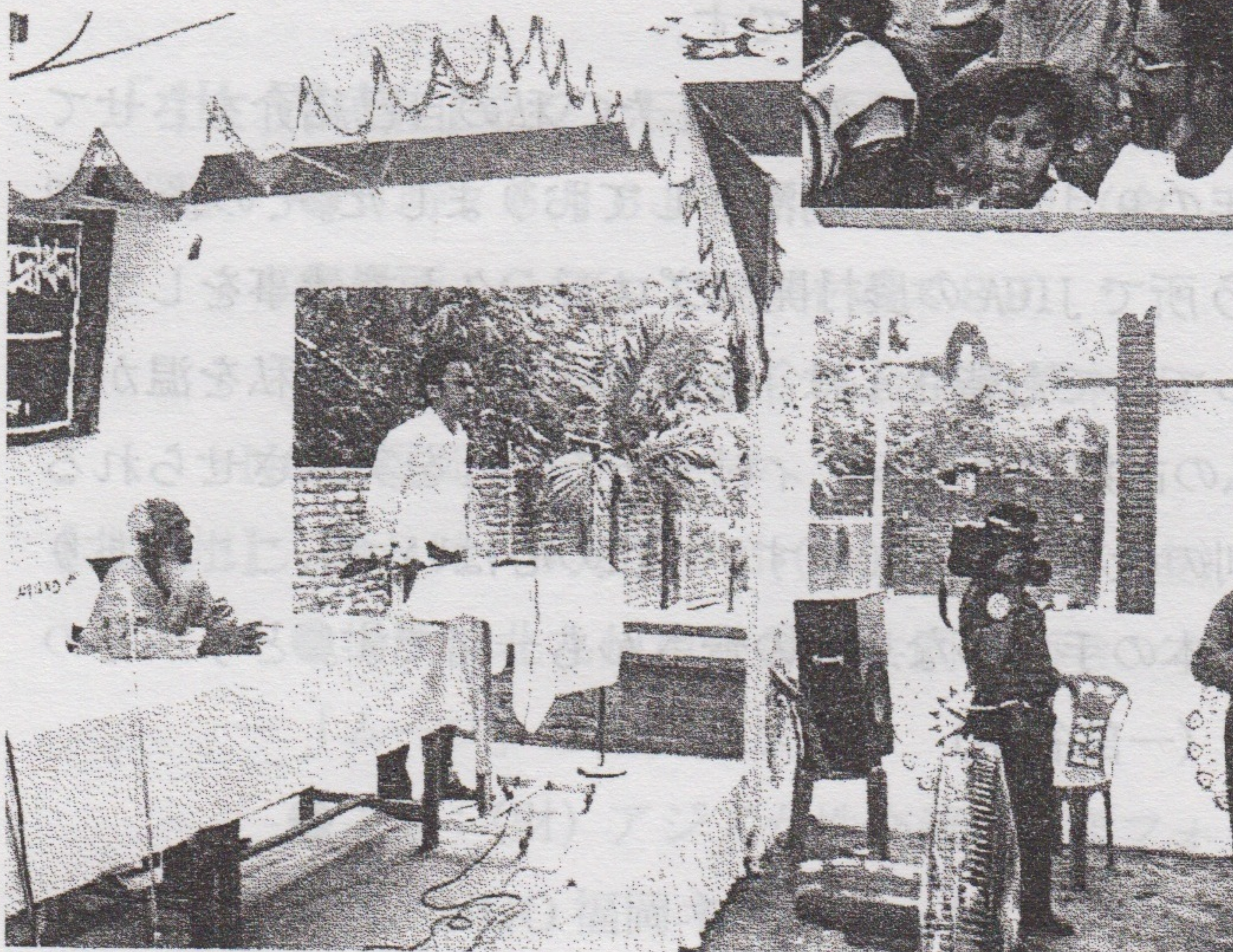




### 産婦人科病棟竣工式

1995年このセンターオープンの日に生まれた二人の子どもたちが招かれた。

村人、行政官、ションダニ・ションスタのメンバー、地域の人々が500人集まった。女性の姿が多かった。



お祝いのスピーチをする矢野孝明君



## 2005年総会報告から・・・活動方針

今年度の事業を実施するにあたって、昨年の特設非営利活動法人として再出発した際の原点に戻ってみました。定款（会則）には、以下のように定めています。

### 第2章 目的及び事業

#### （目的）

第3条 この法人は、同じアジアに生きるものとして、バングラデシュと日本の相互の文化を理解・尊重し、草の根レベルの交流を推進する。そのためにバングラデシュの人々とともに教育、保健医療、及び生活の向上に関する協力事業を行い、人々の自立を目指す活動を支援するとともに、同じアジア人としてまなびあい、手をつないで生きていくことを目的とする。

#### （事業）

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特設非営利活動に関わる事業を行う

- ① 日本とバングラデシュとの協力・交流を広め、又、相互の関心を高め、我々日本人の生活を見直し、地球市民としての観点を育てる事業
- ② カラムディ村及びその周辺地域（以下「同地域」と言う）の教育の普及、向上に関わる事業
- ③ 同地域の保健医療の改善に関わる事業
- ④ 同地域の生活の向上に関わる事業

これらの目的で事業を今年は、以下のような観点から進めて行きたいと思えます。

#### 1) 現地との相互理解を深める。

カラムディ村で活動している、現地NGO「シオンダニ・シオンスタ」からは毎月、母子保健センター、野外活動などの報告が届いています。必要な時には、国際電話や e-mail も利用できるようになり、お互いの距離はぐんと縮まりました。これらの情報の距離の近さを、彼らの生活や考え方などを知る方法として役立てていきたいです。

夏の現地訪問、冬のスタディツアーなど、実際に現地の人々と出会い、話し合い、一緒に活動を行い、さらにお互いの理解を深めたいものです。今年も夏に現地訪問、冬にスタディツアーを行う予定です。現地訪問、スタディツアーの事前研修、事後報告などもさらに充実した、継続的なものにしていきましょう。



また、保健医療や教育の問題だけでなく、バングラデシュの文化や歴史、イスラム教についても、会員同士で学びあい、あるいは、世界各地のNGOの活動などについても知りたいものです。

## 2) 開発教育への視点

開発教育とは、「共に生きることのできる公正な地球社会実現のための教育。世界で起こっている貧困・飢餓、紛争・戦争、文化・民族・宗教などを異にする世界の人々が共に生きることのできる公正な社会をつくっていくことを課題とし、こうした問題を良く知り、自分の問題として考え、その解決に向けて行動していく教育活動」のことです。

バングラデシュと手をつなぐ会の目的は、「バングラデシュの人々とともに教育、保健医療、及び生活の向上に関する協力事業」を行うことを通して、「同じアジア人として学びあい、手をつないで生きていくこと」なのです。これは、「開発教育」の実践にほかなりません。

これからは意識的に、会員同士での開発教育の学びや若い世代への働きかけが重要になってきます。人材育成は、時間がかかるように見えますが、人権意識をもち、世界的視野で、公正な社会を実現しようとする人々の育成という意味で、社会的にもっとも重要な活動となると思われます。

## 3) NGOとしての社会的基盤づくり

私たちは、福岡地区の17団体が参加し、NGOとしての共通の課題を議論し、学びあい、行動するネットワークである「NGO福岡ネットワーク」の一員として活動しています。ネットワーク活動を通して、手をつなぐ会もいろいろな出会いと学びを得ることができました。今年NGO福岡ネットワークは、6月の「世界難民の日」を中心にUNHCRなどと協力してイベント開催の予定です。

NGO福岡ネットワーク全体の現在の課題は、「NGOと地域とのかかわり」です。海外の開発問題、難民問題ばかりでなく、それらの活動が、私たち自身の生活、地域の中にどのように反映されてくるのか、常にその視点を持つことが大切です。自分たちの住んでいる地域での活動、例えば、公民館活動、地域の学校活動への参加、働きかけなども必要になってくると思われます。

長崎の「母子保健センターを支援する会」との協力も更に深めていきたいと考えています。

(二ノ坂 保喜)



バングラデシュの  
母子保健センターを支援する会  
第7回チャリティーコンサート  
(in長崎)

松本裕子が歌う

*Ave Maria*



参加者の声

5月14日、長崎で「バングラデシュの母子保健センターを支援する会」主催の第7回チャリティーコンサート、松本裕子が歌う*Ave Maria*が開催され、手をつなぐ会から二ノ坂夫妻、アメリカから帰国した娘さん、ラフマンさん、安倍さん、中島さん、淵上さん、木村（夫婦で）の9名が参加しました。

日帰りで深夜の帰福となり、懇親会でお酒も飲まずに付き合ったラフマンさんや、二ノ坂夫人、往復を運転したラフマンさんは特に大変だったとは思いますが、コンサートは大変感動的で、懇親会は素晴らしい交流の場となりました。

松本裕子さんのアルトソロ、宮坂純子さんのピアノ伴奏、息の合ったお二人の演奏は、超満員の会場に感動を呼び、特に第二部のアベマリアに、私も思わず泣かされてしまいました。帰りの車中で安倍さんも同じ感想を述べておりました。思わぬ感動を！至福の時を有難う！また、是非参加させて下さい。  
(木村 喜郎)

長崎のチャリティーコンサートに行ってきました！

心に響くピアノと歌声。フルートや高校生コーラスを盛り込んだ演出。シューベルトのアベマリア、グノーのアベマリア…と次々溢れる多様なアベマリアの祈り。随所に感動が散りばめられていて私も思わず涙してしまいました。

また、このコンサートを通して長崎の皆さんのあったかい元気に触れることもできました。いろんなところで支えられているし、応援されているんだなあと感じ、こんな思いが反映された今後のバングラデシュの姿を想像したりしました。

音楽で心を洗われた後、私も思いをまた新たにすることができました。

長崎の皆さん、ありがとうございました！！

(淵上裕子)



## 国際ソロプチミスト福岡北への報告会

5月20日午前11:30から30分間「国際ソロプチミスト福岡北」の5月定例会に参加して「バングラデシュと手をつなぐ会」の活動報告を行いました。

ミロンでもお伝えしておりましたが、産婦人科病棟建設の為、郵政省の国際ボランティア貯金配分金より補助していただくようになったものの、手をつなぐ会でも不足分を負担しなければなりません。しかし会の財政はかなり厳しい状態にあり、新聞を通して募金を呼びかけておりました。その記事が国際ソロプチミスト福岡北と久留米クラブの会員の方の目に留まり、関心を持っていただきました。3月中に各々の会員の方が手をつなぐ会の事務所を訪問され、私たちの活動に熱心に耳を傾けてくださいました。嬉しいことに、両方のクラブが共同でソロプチミスト本部から手をつなぐ会への支援を得るために申請中です。近いうちに良いお知らせをお伝えできるかもしれません。

この申請とは別に、国際ソロプチミスト福岡北は独自に手をつなぐ会を支援することを考え、会員みんなが私たちの活動内容についてもっと深く知りたいと、5月の例会に招かれました。30分の貴重な時間を頂き、会の歴史や今までの活動をパソコンを使って説明しました。会員の皆様から暖かい言葉や心遣い、最後にクラブ賞まで頂きました。またこれからも継続的に支援できないかを前向きに検討していただいております。紅茶や民芸品を持っていきましたが、あっという間に全部売り切れになり、特に紅茶やテーブルクロスは足りないほどで、夏の現地訪問の際にたくさん購入してくる約束をしました。本当に心から感謝しております。

## 今井記念海外協力基金助成金

国際ボランティア貯金配分金で産婦人科病棟の建物が建設されますが、設備購入資金がなく大変困った状況の中、今井記念海外協力基金のことを知り申請しました。幸運にも90万円の資金援助が決まり、会の口座に振り込まれました。

シヨンダニからも様々な設備の要求がありました。分娩台、ベッド、診察台、棚、机、イス、扇風機等々。これらの設備はさておき、シヨンダニの病院で生まれる新生児の半数以上は未熟児か、体重が非常に低い(2,000g以下)のです。特に未熟児のほとんどは助からない状況です。これらの命をどう助けるかが大きな課題です。以前から使われている分娩台やベッドをとりあえずそのまま使い、未熟児を助けるために不可欠なものとして次の設備購入のために今井記念海外協力基金に申請しました。①保育器②光線療法機器③児心電計④酸素シリンダー2台です。全部あわせて100万円かかりますので、支援金だけでは足りません。これからも設備充実のために募金活動が必要です。

今井記念海外協力基金の援助がなかったら、これらのものを購入できなかったでしょう。基金の関係者にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。これからもご支援やご協力ほどよろしくお願いいたします。



## ご協力有難うございました!・・・春のバザー

去る3月27日、前日からの曇空で多少心配されていた空模様が見事にに的中(?)して当日は朝から雨とつめたい風が吹きつけ、まるで嵐さながらでした。それでも常連のお客様は三々五々と集まって来られ、折角だからということで時間を繰り上げ、10時よりバザー開始となりました。

そんな事情で今回はShanaさんのミニコンサートは中止となり、楽しみにしていた方たちの中からは「あら-残念ね」と声が上がりました。(同感)

それでも今回はオイスカの皆さんにもお手伝いを頂き新鮮野菜・綿菓子など新商品もお目見えして寒さに震えながら心はほのぼのとしたバザーでした。あいにくの天気にも係わらず、売上も83,829円と予想外の盛況で「野芥のバングラのバザー」としての定着を実感しました。

雨と寒さのなか、お手伝い頂いた皆さん、差し入れをしてくださった方たち、皆さんお疲れ様でした、感謝! (井口)

## 活動報告会 ～国際ボランティア貯金とNGO活動～

3/19(土)春日市で行われた郵便局主催の「NGO活動発表会と三笑亭夢之助独演会 感謝の集い」に、ラフマンさん・中島さん・松原さん・洲上の4名で参加。活動発表と、パネル展示&民芸品等販売を行いました。

発表では、手をつなぐ会の活動を、郵便局の国際ボランティア貯金と絡めて紹介しました。手をつなぐ会では、これまで3度にわたり国際ボランティア貯金の配分金をいただいており、そのお金は、カラムディ村で超音波装置、救急車、そしてこの度落成した産婦人科病棟となり活かされています。身近にあるけれども意外と知らない国際ボランティア貯金の行方に、私自身、驚きと納得の連続でした。会場のお客様にも感じていただけるものがあつたのではないかと思います。

余談ですが、国際ボランティア貯金の使われ方等については、郵便局に小冊子が置いてあります。読んでみると結構面白いものですよ。オススメです。

(洲上)



Milon

## 「世界難民の日」関連事業：難民問題を考えるシンポジウム&写真展 私たちのなかの難民

日時 2005年6月12日(日) 13:00~17:00

場所 西鉄ホール(ソラリアステージビル6F)福岡市中央区天神2-11-3

チケット(当日券/前売券とも) 一般 1,000円 FUNN会員/学生 500円

(NGO福岡ネットワークにてご購入いただけます。)

主催 NGO福岡ネットワーク(NPO法人申請中)

共催 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日地域事務所 (特活)日本国連HCR協会

### プログラム

13:00~ 開場(会場内の写真展をご覧になれます)

13:30~ シンポジウム「私たちのなかの難民」開始

13:45~ 対話 「"難民"として暮らす~日本で難民認定を受けた方との対話」

<ゲスト>\*ティン・ウィンさん…1954年ミャンマー生。民主化運動に参加、逮捕・投獄された。89年アウン・サン・スーチー書記長のNLD(国民民主連盟)幹部に。党員の逮捕が続き、身の危険を感じ国外脱出。96年日本へ。弁護士の支援を得て難民申請、2年後の99年、難民として認定された。

14:45~ 休憩(写真展などをゆっくりご覧下さい。)

15:00~ シンポジウム「私たちのなかの難民~世界の、日本の難民問題を考える」

<パネリスト> 外務省・UNHCR・NGO他

<コーディネーター> 堤かなめ氏(九州女子大学人間科学部教授)

16:30~ 質疑応答

17:00 終了予定(17:30まで写真展をご覧になれます。)

### 「世界難民の日」写真展 <関連事業>…無料でご覧になれます。

【福岡】 ●日時：6月6日(月)~10日(金)

●場所：GAYA(天神イムズ8F)

●主催：日本国際連合協会福岡県本部、  
NGO福岡ネットワーク

【北九州】 ●日時：6月16日(木)~24日(金)

●場所：北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」1階交流広場

●主催：(財)アジア女性交流・研究フォーラム、NGO福岡ネットワーク





## 会計報告(2005年5月28日現在)

### ※新会員紹介(敬称略)

片山志保 渕上裕子 吹野正義 堀哲也 升島早苗 平山正明

### ※募金者紹介(敬称略)

江頭毅 竹田照 長沼和子 菅美枝子 八木良子 小川宮子 今給黎靖子

津田光昭 稲津佳世子 国際ソロプチミスト福岡北

宇治松枝 佐治泰世 仲井勝也 陶山緑 藤田健二 工藤裕子 池田義博

松田純子 福本トシ子 山崎博敏 市澤定代 原和子 (財)オイスカ

春日市ふれあいセンター会場にて 長崎チャリティコンサート会場にて

西新5丁目2区自治会 愛宕浜小学校6年生 西新小学校6年生

### ※産婦人科病棟建設&設備費募金者紹介(敬称略)

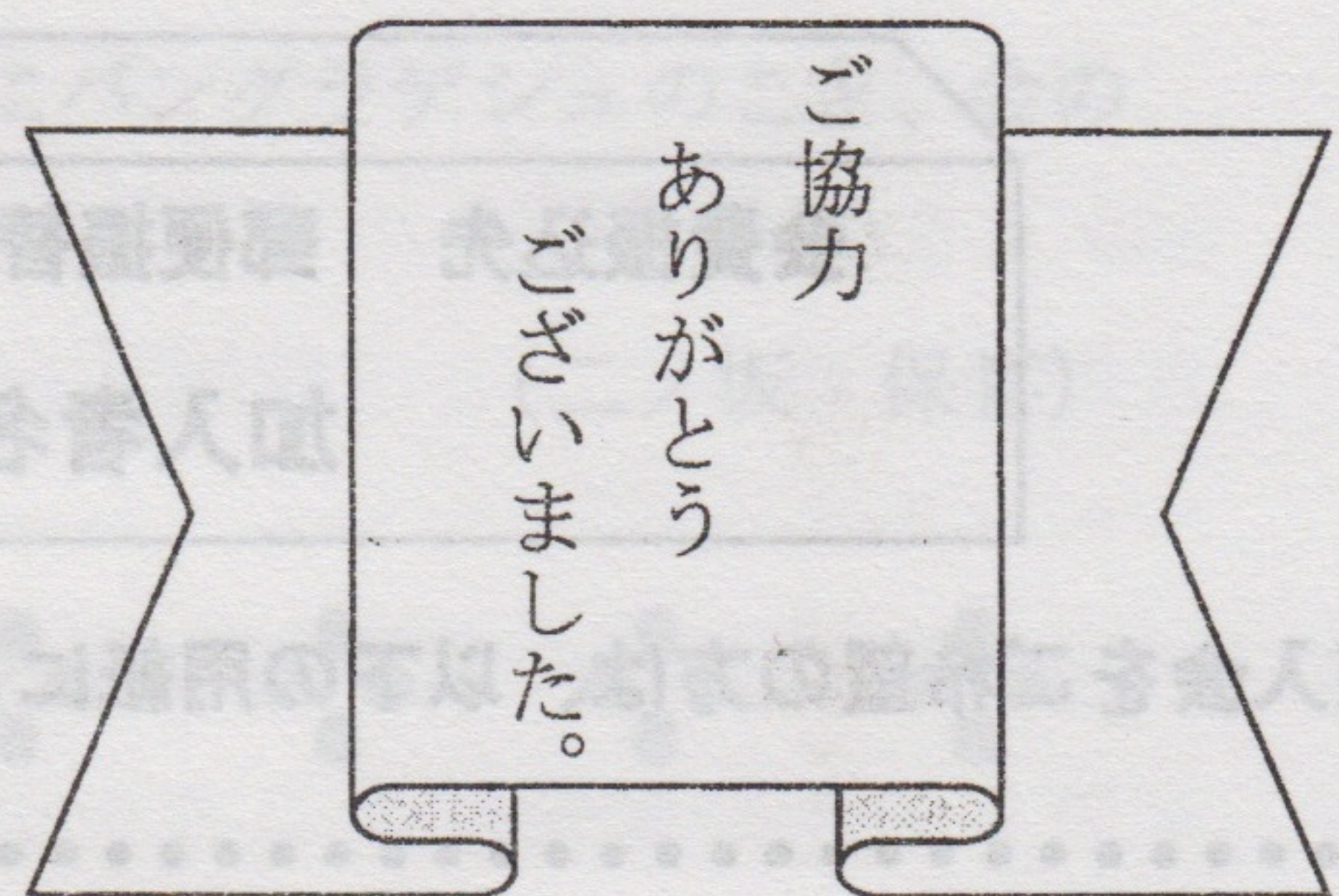
松尾清美 中嶋幸子 林久美子 木村理恵

佐藤修二 幸田あけみ 室田芳乃

### ※旅費のカンパ(敬称略)

井上伊磨子 山下久代 牛島由紀子

山口マツヨ 瀧本康子



事務局便り：3月20日は、皆様どちらにいらっしゃいましたか？

福岡沖地震で大きな被害に見舞われた福岡市とその近郊ですが、皆様の被害が最小限でありますことをお祈りいたします。

西新事務所も年季の入った建物ですが、おかげさまで目立った被害もなくすくと西新に根を張ったように建っています。

今年も現地訪問の季節が近づきました。順調に参加者も集まり、現地への理解を深め、それぞれの目的を持って参加するために、これから勉強会が始まります。仕事帰り、又、夜勤前の貴重な時間を割いて参加される皆様に実りある勉強会にさせていただくために、既現地訪問者のご協力を得ながら、運営委員一同準備していきたいと思います。“今年に行けなくてもいつかは…”と密かに思っている方も大歓迎です。予定表をご覧ください。事務所：電話092(844)1369



■入会のご案内

会員募集中

Bangladesh と手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

Bangladesh と手をつなぐ会では、Bangladesh ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員

会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6,000円

賛助会員

会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1,000円年間12,000円

※ 何口でも結構です。

|       |                    |               |
|-------|--------------------|---------------|
| 会費振込先 | 郵便振替口座             | 01720-2-10442 |
| 加入者名  | Bangladesh と手をつなぐ会 |               |

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

きりとりせん

■ Bangladesh と手をつなぐ会入会申込書 ■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名

男・女

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 才

職業

住所

電話・FAX

E-mail

@

会員  協力会員 として入会を申し込みます。

会費は 年 月分 から 年 月分までの

円を  直接  郵便振替で納めます



# これからの行事予定

～皆さま、どうぞご参加ください。

| 月 日                | 時 間             | 場 所                 | 内 容                         |
|--------------------|-----------------|---------------------|-----------------------------|
| 6月 2日 (木)          | 19:30～          | あすみん                | 現地訪問団 事前研修会①                |
| 6月 9日 (木)          | 19:00～          | 西新事務所               | 運営委員会                       |
| 6月 12日 (日)         | 13:00～<br>17:00 | 西鉄ホール<br>ソリアステージ 6F | NGO 福岡ネットワーク<br>私たちのなかの「難民」 |
| 6月 16日 (木)         | 19:30～          | あすみん                | 現地訪問団 事前研修会②                |
| 6月 23日 (木)         | 19:00～          | 西新事務所               | 運営委員会                       |
| 7月 7日 (木)          | 19:00～          | 西新事務所               | 運営委員会                       |
| 7月 16日 (木)         | 19:30～          | あすみん                | 現地訪問団 事前研修会③                |
| 7月 21日 (木)         | 19:00～          | 西新事務所               | 運営委員会                       |
| 8月 4日 (木)          | 19:00～          | 西新事務所               | 運営委員会                       |
| 8月 11日 (木)～21日 (日) |                 | バングラデシュ・カラムディ村      | 夏の現地訪問                      |
| 8月 23日 (木)         | 19:00～          | 西新事務所               | 運営委員会                       |

…編集後記…

いよいよ母子保健センターの出産病棟も竣工式を迎えました。

竣工式の喜びもひとしおながら、その知らせを翌日にはメール

受け取れる状況にもまた感慨深いものがあります。そのうち miron も

ションダニスタッフと共に製作するようになりまして……(J)



# 現地訪問

# 参加者募集!



日程: 2005 年

8 月 11 日(木)~21 日(日)

費用: 20 万円

(ビザ代・保険代別)



カラムデイの熱い風に吹かれると、  
その冬は風邪を引かないという言葉  
い伝えが...ある...かも。



村での生活は「一見は百聞にしかず」という  
言葉を実感させてくれるでしょう。

村人と共に語り、共に笑い、同じ空を見上げ  
てみませんか?

日本で見えなかったあんなものやこんなも  
の、見えてくるかもしれません。

お気軽にお問合せください。

事務所: 092-844-1369

ラフマン: mokhles49@ybb.ne.jp

にのさかクリニック: 092-872-1136

